

Since 1994

30th Anniversary

約120人が参加して賑やかに創立30周年パーティー

日本科学技術ジャーナリスト会議（JASTJ）の創立30周年を祝うパーティーが2024年7月1日、日本プレスセンタービル10階ホールで開かれた。会員、賛助会員、科学ジャーナリスト塾の元塾生を中心に想定を上回る約120人が集まり、終始和やかな雰囲気にも包まれた。



参加者全員の記念写真

受付を済ませた参加者は18時半から広い会場に入り、飲み物を片手に談笑したり、壁際に展示されたJASTJの出版物や過去の会報などを見たりした。壁に貼られた「30年の年表」をじっくり眺める人もいた。

司会進行は瀧澤美奈子副会長と寺沢和洋理事が務め、19時に室山哲也会長が「今日はさまざまな方にお集まりいただいた。いろいろな人と話してJASTJという団体のウィングの広がりを体感していただきたい」と開会挨拶。続いて、科学ジャーナリスト賞の選考委員を2011年（第6回）から務める相澤益男・元東京工業大学学長がグラスを持って登壇し、賞の歴史を振り返りなが



会場のあちこちで会話の輪ができた

ら乾杯の音頭をとった。

歓談をはさんで高橋真理子副会長がスライドを使いJASTJ創設の経緯と月例会や科学ジャーナリスト塾、国際活動などの事業を簡単に説明。歴代会長も紹介し、故人となられた初代岸田純之助、第3代小出五郎の両氏をのぞく第2、4、5、6代会長の牧野賢治、武部俊一、小出重幸、佐藤年緒の各氏が壇上で一言ずつ挨拶した。



登壇した歴代会長。左から牧野賢治さん、武部俊一さん、小出重幸さん、佐藤年緒さん。

このあと、一瞬会場が暗くなってスペシャルゲストのブラック星博士（実は井上毅・明石市立天文科学館長）が入場。プラネタリウムに関するクイズで観客に挑み、途中から登壇したJASTJ理事で国立天文台准教授の縣秀彦さんとともに場を盛り上げた。



ブラック星博士と国立天文台の縣秀彦さんの掛け合い

終盤では、賛助会員を代表して海洋研究開発機構（JAMSTEC）理事の河野健さん、東京サ

ラヤ株式会社代表取締役社長の更家富美子さん、株式会社構造計画研究所会長の服部正太さんからお祝いのメッセージをいただいた。20時半に滝順一事務局長が閉会の挨拶をし、最後に全員が会場前方に集まり記念写真を撮った。



賛助会員として挨拶した河野健さん、更家富美子さん、服部正太さん（左から）

JASTJは、ユネスコ（国連教育科学文化機関）が主催して1992年に東京で開いた「科学ジャーナリスト世界会議」の日本組織委員会が母体となって設立され、1994年7月1日に第1回総会を開いた。10周年にはミジンコ好きで知られるサクソ奏者坂田明さんのトークと演奏に加えて評論家の立花隆氏らが参加するシンポジウム「21世紀の科学と社会」を開き、20周年には記念行事「科学とウィンナワルツの夕べ」を催した。

30周年は何をするか？ 2024年に入って早々の理事会で室山会長が投げかけた問いに、理事たちからはさまざまな意見が出た。話し合いを進めるなかで、「堅苦しいことはしない」「コロナ以後、実際に会う機会が減っているの、人々が直接会う機会にする」「元塾生にできる限り声をかける」といった基本方針が固まっていった。



30年の年表の脇で談笑する元塾生と井上能行理事（左写真）
司会の瀧澤美奈子副会長と寺沢和洋理事（右写真）

果たして何人ぐらい参加するのか。まったく見当がつかなかったため、会員と元塾生を対象に「ぜひ参加したい」「できれば参加したい」「参加できない」などから選んでもらう意向調査を3月



集まった科学ジャーナリスト賞有識者委員。左から浅島誠さん、白川英樹さん、黒川清さん、相澤益男さん。

に実施した。約90人から回答があったが、「ぜひ」は24人。想定されたことではあったが「できれば」のボリュームが一番大きく、そのうちの何割が参加するのか、やっぱり読めないのだった。

ただ、この意向調査が「7月1日にパーティーがある」と知らしめる役割を果たしたのは間違いない。会費は、申込の際にクレジット払いするのと当日会場払いの2コースを用意した。このため、受付準備は煩雑をきわめた。当日配布する名簿づくりをはじめ手間のかかる作業を引き受けてくれた理事の井内千穂さんと事務局の中野薫さんに改めて深く感謝したい。



受付を担当した井内千穂理事、西野博喜理事、事務局の中野薫さん（左から）

会場手配や支払いは滝順一事務局長が担当した。申込サイトは柏野裕美副会長がつくった。準備を進めたスタッフたちは、参加者たちの笑顔に苦勞が吹き飛ぶ思いだったろう。企画した私は「会費3000円を例外なく徴収」と、たとえ礼を失う場合があるろうとわかりやすさを優先したのが成功の要だったと分析している。

会費収入を経費から引いた「持ち出し額」は463,492円だった。50万円の予算を組んでいたので、収支面からも大成功だった。

（副会長 高橋真理子）